

第 8 次氷見市総合計画基本構想の骨子の検討について

目指す都市像

< 第 7 次総合計画 >

人と自然がなごむ 交流都市 ひみ

< 第 8 次総合計画 >

※今後の策定作業の中で決定します。

基本理念(案)

(これまでの歩み)

第 7 次総合計画の計画期間においては、単独市政の選択、6 校統合をはじめとする学校統合、市民病院の公設民営化などの数々の課題を克服しながら、「みんなに優しいまちづくり」「誰にも便利なまちづくり」「いきいきとしたまちづくり」を基本として諸施策を進め、能越自動車道や国道 160 号・415 号などの道路網、市民病院の移転新築、市内全域にわたるケーブルテレビ網など、重要な社会資本の整備を推進することができました。

また、氷見市全体を 1 つのエコミュージアムと見立てた田園漁村空間博物館構想を推進し、自然・歴史・伝統などの地域の宝を磨き輝かせ、住民のパワーを引き出す事業に取り組むとともに、豊かな食文化の発信、定置網を通じた国際貢献活動、まんがや映画を活用したまちづくり、横浜市・川崎市との友好活動など、氷見市の持つポテンシャルを発揮することで、交流の裾野を拡大することにも力を注いできました。

(これからのまちづくりの考え方)

氷見市は、国や県を上回るペースで高齢化が進行し、これに少子化があいまって、人口減少が続いており、これに伴い、福祉や生活環境、防犯など、様々な面で地域を支え続けてきた住民相互の助け合いの基盤が揺らぎつつあり、いわゆる集落機能の低下が、今後の自治体を存続していくうえで、大きな課題となっています。

また、東日本大震災を機に、市民の災害への備えに対する関心が高まっており、地震や台風、大雨による自然災害を未然に防ぐ対策はもとより、被災した場合に地域と行政が一体となり被害を最小限に食い止める総合的な防災体制の整備が求められています。

これからの 10 年間で展望する時、氷見市の限りない発展の土台となる非常に大切な時期であると言え、市民・企業・行政が協働して様々な課題を自己責任で克服していくことが求められます。

日本社会全体が、右肩下がりとも言うべき厳しい変革期に入っていますが、これまで育んできた食・自然・歴史文化など氷見の個性を大きく花開かせ、海外や国内の自治体との友情を深めながら、市民が自信と誇りを持ってふるさとを語り、価値の高いライフスタイルを提供できる「全国ブランドのまち・氷見」の創造に努めます。

また、市民の生命を守り、安全・安心な暮らしを実現することは行政の最も重要な責務です。このため、地域社会の中に色濃く残っている人と人との温かい絆を大切に、地域を先導するリーダーの育成など、地域力の向上にも努めながら、新たな地域での支えあい助け合いの仕組みを構築するとともに、安心して子どもを生み育てることができる環境の整備に努めます。

そして、これらがバランスよく融合し、「質素な中にもささやかな贅沢を享受し、心のゆとりと温かみを感じることができる」真に質の高い市民生活の実現に努めていきます。

<まちづくりの視点（キーワード）>

個性 協働 交流 安心 未来

基本目標（施策の大綱）（案）

- (1) 安全・安心な温もりのある暮らしづくり
- (2) ふるさとを愛し次代を担う人づくり
- (3) 躍進とにぎわいを生み出す元気づくり
- (4) 持続可能な行政経営の確立

重点プロジェクト（案）

- ▽防災・安全ネットワーク構築プロジェクト（防災、防犯、消防、治山・治水等）
- ▽あったか子育て充実プロジェクト（ワークライフバランスの促進等）
- ▽はつらつ長寿社会実現プロジェクト（健康づくり、生きがいづくり等）
- ▽1町19ヶ村の地域力発揮・向上プロジェクト（集落機能維持、支え合い等）
- ▽美しいふるさと創生プロジェクト（花とみどり、景観保全、エコライフ等）
- ▽ふるさと教育・地域リーダー育成プロジェクト（体験活動充実、歴史・文化継承等）
- ▽いきいき生涯スポーツ振興プロジェクト（子どもの体力向上、競技力向上等）
- ▽新地域産業創造プロジェクト（6次産業化・農商工連携、中山間地域の活用等）
- ▽300万人交流推進プロジェクト（北大町整備、広域交通基盤・地域資源活用等）
- ▽食のブランド創造・発信プロジェクト（一村一品運動、新商品開発等）

※計画期間を超えた長期的な視点に立って実施する重点プロジェクトをチャレンジプロジェクトとして位置付けることも検討します。